

2006年度

大学決算について

財務部 経理課

2006年度大学決算は、2007年5月10日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月26日開催の法人理事会で承認されました。

2006年度は、教育研究条件の整備充実を図るための事業として、「プロジェクト科目」の設置、「同志社大学オープンコース」による授業教材の電子化とWeb公開、学修支援システム「DUET」とGPA得点分布公表による成績評価の厳格化への取り組み、情報環境のリプレイス(計画に基づく更新)などを重点的に実施しました。また、学生支援事業として、リチャーズハウス(国際交流女子寮)への入寮開始、被災者に対する学費等減免措置の実施、今出川キャンパス食堂の改修、京田辺キャンパス食堂の一部リニューアルなどを行いました。そのほか、神戸試験場新設などの入試制度見直し、同志社京田辺祭2006の開催、アンチエイジングドックの開設、両校図書館の地域公開などにも取り組みました。さらに、2008年4月に向けて「生命医科学部」と「スポーツ健康科学部」の開設準備に取り掛かり、将来的には文系学部の1・2年次教育を今出川校地において展開することを基本方針とする、大学将来構想の策定を行いました。

建設事業では、クラーク記念館の保存修理事業、学研都市キャンパスの整備事業、デイヴィス記念館の湿潤対策空調工事、硬式野球場への夜間照明設置工事などを実施しました。

上記のとおり、2006年度は、同志社教育を新たなステージへと推し進めるべく、大規模な教育改革を進行させるために必要となる財政的支援を図る一方で、寄付金や補助金、事業収入など外部資金の獲得にも引き続き積極的に取り組みました。さらに、入学者を安定的に確保し、入試志願者数を飛躍的に伸ばしたことにより、予算段階に比べると大きく収支バランスの改善を図ることができました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は265億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は72%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は6億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は41億円で、国庫補助金が主なものです。このうち経常費補助金については、一般補助と特別補助がありますが、予算では確実に収納を見込むことができる額を計上しており、大きく増収となりました。その他の国庫補助金では施設設備対象の補助金としてハイテク設備、研究装置、研究設備などの採択を受け、さらに特色GPや現代GPといった大学教育改革プログラムを実施するための大学改革推進等補助金などを受入れました。

資産運用収入は4億円で、基本金引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は6億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、補助活動収入および付属事業収入が主なものです。

雑収入は7億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰入金は19億円で、法人内諸学校からの資金調達の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は14億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は、研究装置設備等整備資金による研究装置取得を後年度に繰延べたことにより、全額執行残となりました。

特定支出準備金取崩額は7億円で、使途が特定された準備金の取崩額です。

収入の部合計は389億となり、手数料、補助金などの増収により予算に対して30億円の増加となりました。

支出の部

人件費は167億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は45%となりました。教員充実計画による教員増員が継続しているものの、アルバイト等の雇用が見込みよりも少なかったことなどにより、前年度に比べて3%減少しました。

教育研究経費は120億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は12億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金は大学で受入れた法人宛寄付金などの各校への繰入額です。

施設関係支出は24億円で、クラーク記念館の保存修理事業、学研都市キャンパスの整備事業、デイヴィス記念館の湿潤対策空調工事、硬式野球場への夜間照明設置工事などによる支出です。

設備関係支出は14億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

借入金等返済支出は4億円で、償還計画に基づき計画通り返済しました。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金12億円、情報基盤整備資金3億円の合計15億円を組み入れました。

第3号基本金組入額は、過年度からの運用果実による準備金の一部を基金に組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は3億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は362億円で、予算に対して2億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は27億円の収入超過となり、帰属収入の増加などにより、予算に対して32億円改善しました。しかしながら、累積消費収支差額としては214億円の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して4億円減少し、当年度末では19億円となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は257億円でしたが、当年度末は24億円減少して233億円となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

収支計算書

2006年4月1日から2007年3月31日まで

(単位:千円)

科目	収入の部		
	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	26,463,000	26,492,312	29,312
手数料	1,392,600	1,758,601	366,001
寄付金	451,950	579,046	127,096
補助金	3,679,570	4,091,989	412,419
資産運用収入	407,830	445,805	37,975
資産売却差額	0	31,773	31,773
事業収入	483,010	572,016	89,006
雑収入	676,660	697,050	20,390
繰出金	746,250	1,892,046	1,145,796
分担金	134,990	134,990	0
(帰属収入合計)	(34,435,860)	(36,695,628)	(2,259,768)
当期固定資産除却額	1,258,060	1,347,841	89,781
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	0	144,164	144,164
第2号基本金取崩額	30,000	0	30,000
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(1,288,060)	(1,492,005)	(203,945)
特定支出準備金取崩額	108,090	690,034	581,944
[収入の部合計]	[35,832,010]	[38,877,667]	[3,045,657]

科目	支出の部		
	予算	決算	差異
人件費	16,873,660	16,679,298	194,362
教育研究経費	12,279,390	11,959,370	320,020
消耗品費他	8,998,940	8,678,913	320,027
減価償却額	3,280,450	3,280,457	7
管理経費	1,250,090	1,212,970	37,120
消耗品費他	1,178,430	1,141,324	37,106
減価償却額	71,660	71,646	14
借入金等利息	69,160	69,158	2
資産処分差額	0	54,944	54,944
徴収不能引当金繰入額	59,500	39,781	19,719
徴収不能額	0	9,257	9,257
繰入金	0	11,610	11,610
予備費	100,000	-	100,000
(消費支出合計)	(30,631,800)	(30,036,388)	(595,412)
施設関係支出	2,244,860	2,351,721	106,861
設備関係支出	1,475,760	1,436,633	39,127
当期固定資産受贈額	0	83,949	83,949
基本金対象資産振替増加額	0	6,860	6,860
借入金等返済支出	354,780	354,780	0
前期末未払金	51,680	51,682	2
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0
第3号基本金組入額	0	2,600	2,600
第4号基本金組入額	58,000	58,000	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(5,685,080)	(5,846,225)	(161,145)
特定支出準備金繰入額	77,930	269,872	191,942
[支出の部合計]	[36,394,810]	[36,152,485]	[242,325]

用語解説

収支計算書

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度消費収支差額)	(562,800)	(2,725,182)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	626,223	—
消費支出準備金取崩額	1,062,320	0	—
繰入取崩後当年度消費収支差額	[499,520]	[2,098,959]	[—]
前年度繰越消費収支差額	[23,453,420]	[23,453,424]	[—]
翌年度繰越消費収支差額	[22,953,900]	[21,354,465]	[—]

借入金			
科目	予算	決算	差異
前年度末借入金残高	[2,260,310]	[2,260,310]	[—]
当年度借入額	0	0	—
当年度返済額	354,780	354,780	—
当年度末借入金残高	[1,905,530]	[1,905,530]	[—]

収支構成図

収入合計 389億円
(うち帰属収入 367億円)

支出合計 362億円
(うち消費支出 300億円)

